

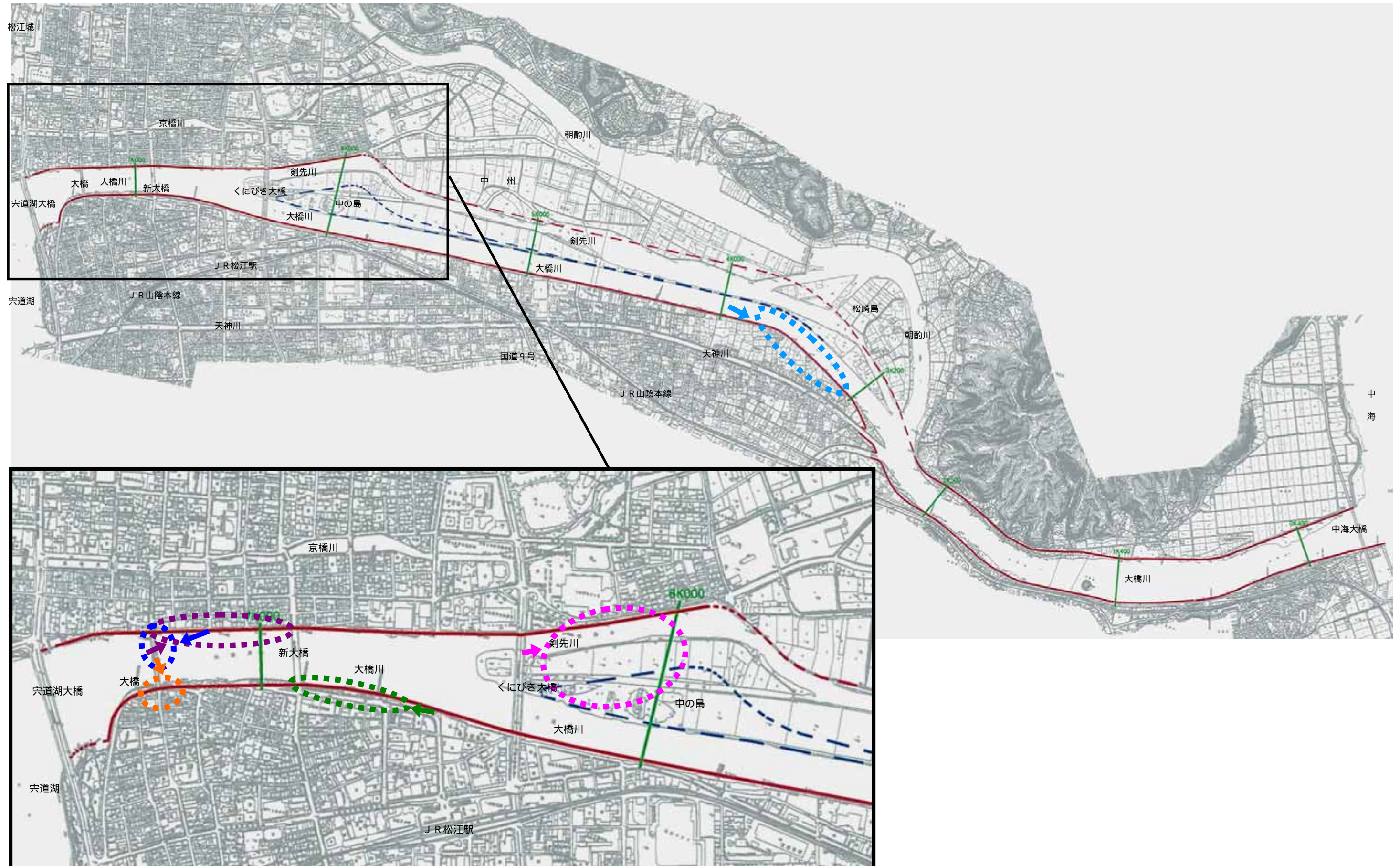
視点場・視点方向の検討

1. 景観対象と視点場の位置	1
2. 景観対象の概要	2

平成 18 年 6 月 27 日

1. 景観対象と視点場の位置

資料 4 において抽出された検討対象とすべき主な景観要素の中から、当面の検討対象として 6 箇所の景観対象を選定した(下図)。これらは、現段階で景観形成の方向性がある程度具体的に検討可能である箇所や地域住民の利用頻度が高いなど特に重点的に検討すべきと考えられる箇所である。



2. 景観対象の概要

以下に各景観対象の概要と検討の視点を示す。

視点場	大橋
視点方向	大橋から新大橋にかけての左岸側
景観対象	柳並木周辺
関連するキーワード	<ul style="list-style-type: none">・ 散策や癒しの場である柳並木・ 水面に近い河岸・ 地場の石で作られた石積みの護岸・ 出雲国風土記の時代から松江藩の時代、小泉八雲の代表される明治中期にも残っていた古い日本の面影、風情
景観対象の概要（現況）	<ul style="list-style-type: none">・ 現状では柳並木、老舗旅館水面との距離の差が小さい石積みの護岸が一体となって、風情のある景観を形成している。また、地域住民の散策スポット等として利用頻度も高く、上流部沿川を代表する景観となっている。

【景観対象の現況写真】



視点場	大橋
視点方向	大橋南詰め方向
景観対象	源助公園（大橋南詰め付近）
関連するキーワード	<ul style="list-style-type: none"> ・ 橋詰め広場 ・ 水面に近い河岸 ・ 地場の石で作られた石積みの護岸 ・ 出雲国風土記の時代から松江藩の時代、小泉八雲の代表される明治中期にも残っていた古い日本の面影、風情
景観対象の概要（現況）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現状では、源助公園が位置するなど、住民の散策や観光客の憩いの場、観光スポットとして利用されている。

【景観対象の現況写真】



視点場	大橋～新大橋左岸
視点方向	大橋方向
景観対象	大橋
関連するキーワード	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国際文化観光都市松江の象徴 ・ 郷愁のある擬宝珠、高欄 ・ 朝霧や夕日の時間帯に幻想的な風景となる大橋及びその周辺と六道湖
景観対象の概要（現況）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本対象は、「水の都 松江」の象徴である大橋が中心であり、周辺一帯は多くの観光客、住民が訪れる観光スポットとなっている。

【景観対象の現況写真】



視点場	新大橋～くにびき大橋右岸
視点方向	大橋方向（上流方向）
景観対象	新大橋～くにびき大橋右岸
関連するキーワード	<ul style="list-style-type: none"> ・ 舟運と共に賑わいのあった（ある）街並み ・ 水辺に近い河岸
景観対象の概要（現況）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本対象付近は、一部で水辺公園、宍道湖観光遊覧船の乗り場等として整備されている。また、商業用のビルが隣接し、松江駅との距離も近い。

【景観対象の現況写真】



視点場	くにびき大橋
視点方向	下流方向
景観対象	剣先川～中の島一带、嵩山・和久羅山からのびる稜線
関連するキーワード	<ul style="list-style-type: none"> ・ 水郷松江の原風景 ・ 川、水路と水田、湿地（湿性地）などが織りなす中州の景観 ・ 嵩山、和久羅山からのびる稜線
景観対象の概要（現況）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本対象は、都市の中にありながら、水と緑ののびやかな景観が広がる貴重な自然景観である。嵩山、和久羅山から伸びる稜線が景観に奥行きと広がりを与えている。

【景観対象の現況写真】



視点場	最下流部から 4 km 付近（水上より）
視点方向	右岸側下流
景観対象	中流部右岸河岸
関連するキーワード	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人々の営み（魚釣り、散策等）への配慮 ・ 水面に近い河岸
景観対象の概要（現況）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本対象は、川沿いの宅地とともに農業用のビニールハウスが確認できるなど生活感を感じさせる景観となっている。釣りや散策のスポットとなっている。

【景観対象の現況写真】

